神 奈 川 県 の 古 墳 (Ⅶ)

―神奈川県古墳地名表(5)―

稲　村　　繁*

Tumuli of Kanagawa Prefecture(Ⅶ)

― List of Tumuli in Kanagawa Prefecture(5)―

Shigeru INAMURA

About 600 tumuli located in Kanagawa Prefecture have been recognized up to now. In comparison with tumuli in the more known areas, like Gunma Prefecture and Chiba Prefecture in the same Kanto Region, not only the total number of the tumulus, but also the both numbers of the tumulus built in the early through the middle period and larger-scale tumuli are less in Kanagawa Prefecture. Furthermore, what is pointed out as another regional feature in Kanagawa is tumuli are less in the coastal area, but are more in the inland areas centering on the piedmont area of Mt. Tanzawa.

This paper is intended to compile data of the tumuli into a list and to explain the tumuli in Kanagawa Prefecture. However, as the total number of the tumuli in the prefecture is still large, the whole prefecture area is divided into several areas. This Part (5) lists up and explains the tumuli in Kawasaki City, where is located on the right-hand side (west side) of the Tama River forming the boundary between Tokyo and Kawasaki City and flowing into Tokyo Bay.

神奈川県内では現在までのところ 600 基ほどの古墳が確認されている．同じ関東地方内でも群馬県・千葉県など有力な地域と比較すると，基数ばかりでなく前期～中期の古墳，大形墳などいずれにおいても築造数が少ない．また，沿岸部には高塚墳が少なく，丹沢山麓を中心とした内陸部に多く分布するのが地域的特徴としてあげられる．

＊横須賀市自然・人文博物館　Yokosuka City Museum, Yokosuka,238-0016 Japan.
原稿受付　2015 年 4 月 10 日　横須賀市 博物館業績　第 696 号
Key Words: Tumuli, Kanagawa Prefecture, Kawasaki City
キーワード：古墳，神奈川県

本稿ではこれら神奈川県内の古墳について集成をおこなうが，基数が多いためいくつかの地域にわけることとし，今回は川崎市内の古墳をとりあげる．内容については以下の凡例に従うが，特記事項がある場合には備考欄に記した．

凡　例

[群]古墳群名
[所]所在地
[立]立地
[形]墳形
[周]周溝の有無
[規]墳丘規模
[埋]埋葬施設の種類
[副]副葬品の品目
[伴]伴出品の品目
[埴]埴輪の有無と種類
[時]築造時期
[文]参考文献
[備]備考

＊１　古墳の別称は(　)内に記した．

＊２　古墳と確認されていないが，埋葬施設や副葬品・埴輪などの出土遺物，あるいは墳丘の現状からその可能性が高いものについては，古墳名のあとに＊印を付した．

＊３　[群]群名のあとの(　)内数字は，確認された古墳の基数．また，群を構成するものの古墳群名がないものについては単に古墳群とした．

＊４　[周]墳丘を巡らず，丘陵を切断する溝のみがみられる場合は区画溝とした．

＊５　[規]は周溝を含まない墳丘の規模．(　)内数字は現状での規模，推は推定規模．このなかで径は直径，長は全長，後径は後円部直径，前長は前方部長，辺は一辺の長さ，高は高さを指す．

＊６　[伴]では，古墳に関係する遺物のうち横穴式石室の前庭部出土を(前庭)，周溝内出土を(周溝)，区画溝内出土を(区画)，周溝・区画溝以外の墳丘裾部出土を(墳裾)，墳頂部出土を(墳頂)，墳丘面出土を(墳面)，墳丘内出土を(墳内)，墳丘内墓壙上面出土を(壙上)，墳丘下旧表土面出土を(墳下)として末尾に記した．

＊７　[時]については，早期・前期・中期・後期・終末期の５区分としたが，早期はおおむね３世紀後半代，前期は４世紀代，中期は５世紀代，後期は５世紀末葉～６世紀代，終末期は７世紀代～８世紀初頭である．時期決定にあたってはおもに埴輪の川西宏幸編年(川西宏幸1978)，須恵器の田辺昭

三編年(田辺昭三1981)などを参考としたが，これによってさらに時期の特定が可能なものについては初頭・前葉・中葉・後葉・末葉，または前半・後半などを( )内に記した.

＊8　調査はおこなわれているものの，未報告のため詳細が不明な項目については不詳とした．なお，報告書が刊行され次第追補をおこなう.

＊9　すでに集成が完了した地域での新規登録や，内容の追加・修正は補遺として巻末に付す.

川崎市麻生区

片平富士塚古墳＊（351）かたひらふじづかこふん　[群]
[所]川崎市麻生区片平 748　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 14.8 m)・高(約 2.8 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]不明　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査.

亀井１号墳＊（352）かめい1ごうふん　[群]亀井古墳群
[所]川崎市麻生区下麻生 758　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 11 m)・高(約 1.5 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]不明　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査.

亀井２号墳＊（353）かめい2ごうふん　[群]亀井古墳群
[所]川崎市麻生区下麻生 758　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 17 m)・高(約 2.5 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]不明　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]1号墳の西方約 30 m. 未調査.

亀井３号墳＊（354）かめい3ごうふん　[群]亀井古墳群
[所]川崎市麻生区下麻生 758　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 13 m)・高(約 1.0 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]不明　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]2号墳の西側に隣接. 未調査.

王禅寺牛塚古墳＊（355）おうぜんじうしづかこふん　[群]王禅寺古墳群
[所]川崎市麻生区王禅寺 56　[立]沖積地　[形]古墳？　[周]不明　[規]径(約 2.2 m)・高(約 1.0 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]不明　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査のまま消滅.

王禅寺狐塚古墳＊（356）おうぜんじきつねづかこふん　[群]王禅寺古墳群
[所]川崎市麻生区王禅寺 94　[立]沖積地　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 6.0

m)・高(約 1.8 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時]不明 [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

子の神社古墳＊(357)ねのじんじゃこふん [群]王禅寺古墳群
[所]川崎市麻生区王禅寺 16 [立]沖積微高地 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 12.5 m)・高(約 2.7 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時]不明 [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]2 基？. 鳥居の西側の古墳は未調査のまま消滅.

高石古墳＊(358)たかいしこふん [群]
[所]川崎市麻生区高石 1-26 [立]尾根上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 10.0 m)・高(約 2.5 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時]不明 [文]伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

下麻生１号墳(359)しもあそう1ごうふん [群]下麻生古墳群(2 基)
[所]川崎市麻生区字花島 1094 [立]尾根先端 [形]円墳(楕円形) [周]区画溝 [規]径約 18 × 13 m [埋]横穴式石室(全長約 4.5 m, 玄室長 2.44 m・幅 2.20 m) [副]石室内:耳鐶 1, 直刀 2, 鉄鏃 50 以上鉄片 1 前庭部付近:土師器坏 1 [伴]なし [埴]なし [時]終末期初頭 [文]伊東秀吉ほか 1988 [備]墳形は自然地形に制約を受けた楕円形. 石室は泥岩切石切組積みの両袖式.

下麻生２号墳(360)しもあそう2ごうふん [群]下麻生古墳群(2 基)
[所]川崎市麻生区字花島 1094 [立]尾根上 [形]円墳(楕円形) [周]なし [規]径約 7 ～ 8 × 10 m [埋]横穴式石室(全長約 4.1 m, 玄室長 1.95 m・幅 2.00 m) [副]鉄片 1 [伴]なし [埴]なし [時]終末期初頭 [文]伊東秀吉ほか 1988 [備]旧３号墳. 墳形は自然地形に制約を受けた楕円形. 石室は泥岩切石切組積みの両袖式. 築造順は１号墳→２号墳か.

川崎市多摩区

菅古墳＊(361)すがこふん [群]
[所]川崎市多摩区菅 5086 [立]丘陵上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 8.0 m)・高(約 1.0 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

登戸富士塚古墳＊(362)のぼりとふじづかこふん [群]
[所]川崎市多摩区登戸 2919 [立]沖積地 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 8.0 m)・高(約 1.0 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀

吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

生田根岸１号墳（363）いくたねぎし1ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 11.5 m)・高(約 1.6 m) [埋]横穴式石室？ [副]玉類，直刀，須恵器提瓶 [伴]不明 [埴]不明 [時]後期～終末期 [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]山寄式昭和26(1951)年専修大学調査. 礫床を伴う内部構造とあることや，須恵器提瓶が出土していることなどから埋葬施設は横穴式石室であった可能性が高い.

生田根岸２号墳＊（364）いくたねぎし2ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 11.3 m)・高(約 1.6 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]1号墳の西に隣接. 山寄式. 未調査.

生田根岸３号墳＊（365）いくたねぎし3ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 14.0 × 14.8 m)・高(約 1.8 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]2号墳の西方. 山寄式. 未調査.

生田根岸４号墳＊（366）いくたねぎし4ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 18.0 × 18.5 m)・高(約 2.2 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]3号墳の尾根上. 山寄式. 未調査.

生田根岸５号墳＊（367）いくたねぎし5ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 10.0 m)・高(約 1.1 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]4号墳の西に隣接. 山寄式. 未調査.

生田根岸６号墳＊（368）いくたねぎし6ごうふん [群]生田根岸古墳群(6基)
[所]川崎市多摩区枡形 2-11 他 [立]丘陵上斜面 [形]不明 [周]不明 [規]不明 [埋]横穴式石室？ [副]なし [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]昭和26(1951)年，県道拡張工事の際丘陵斜面から礫床が検出されている.1号墳と同様斜面から礫床が検出されていることなどから横穴式石室を埋葬施設とする山寄式の古墳であった可能性が高く，6号墳と仮称した.

川崎市宮前区

長尾古墳＊（369）ながおこふん [群]

[所]川崎市宮前区神木本町 5-2 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 11.0 m)・高(約 2.0 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

宮崎大塚古墳＊（370）みやざきおおつかこふん [群]

[所]川崎市宮前区宮崎 175 [立]台地上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 25.0 m)・高(約 5.5 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

古墳＊（371）[群]

[所]川崎市宮前区宮崎 5-4 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 10.0 m)・高(約 2.0 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]東原信行ほか 1985 [備]未調査のまま消滅.

野川１号墳＊（372）のがわ1ごうふん [群]野川古墳群(4 基)

[所]川崎市宮前区野川 302 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 15.0 m)・高(約 2.4 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.『新編武蔵風土記稿』野川村の条には「古には古塚十三ありし、…中古此所より甲冑の朽ちしものを掘出せし…」とある.

野川２号墳＊（373）のがわ2ごうふん [群]野川古墳群(4 基)

[所]川崎市宮前区野川 294 [立]台地上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 16.0 m)・高(約 3.5 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]1967 年～ 1988 年の間に未調査のまま消滅.

野川３号墳(野川ゴルフ練習所前古墳)＊（374）のがわ3ごうふん(のがわゴルフれんしゅうじょまえこふん) [群]野川古墳群(4 基)

[所]川崎市宮前区野川 219 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 16.7 m)・高(約 2.6 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]1967 年～ 1988 年の間に未調査のまま消滅.

北根古墳（375）きたねこふん [群]野川古墳群(4 基)

[所]川崎市宮前区野川 953 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 20.0 m) [埋]木棺直葬？ [副]直刀 1 [伴]土師器坩(墳裾) [埴]なし [時]前期？ [文]新井清 1966 [備]直刀は，中心よりやや北東に外れて出土.

馬絹古墳（376）まぎぬこふん [群]

[所]川崎市宮前区馬絹 994-10 [立]丘陵端 [形]円墳 [周]有り [規]径 33.0 m・高約 6.0 m [埋]横穴式石室 [副]玄室:鉄釘片 45 前室:鉄釘片 29 羨道部:鉄釘片 5 [伴]土師器・須恵器片(封土・周溝) [埴]なし [時]終末期前葉 [文]樋口清之ほか 1973, 服部隆博ほか 1994 [備]昭和 46(1971)年調査. 同年県史跡に指定. 石

室は半地下式で，泥岩截石切組積両袖前室胴張複室構造(全長 9.6 m)．羨門閉塞は泥岩切石．石室内各所に漆喰の痕跡を留める装飾古墳．北部九州系石室か．

有馬古墳＊（377）ありまこふん　[群]

[所]川崎市宮前区有馬 15　[立]台地中央　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 26.5 m)・高(約 4.2 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]県営有馬団地児童公園内．未調査．

○宮前区平(旧平字風久保)の丘陵端部から墓壙内に安置された泥岩製刳抜形石棺(棺身内法長 1.11 m・幅 0.27 m)が検出されている．古墳時代の墓となる可能性はあるが，墳丘・周溝・遺物のいずれも確認されていないことから本稿では除外した．

川崎市高津区

上作延南原古墳＊（378）かみさくのべみなみはらこふん　[群]

[所]川崎市高津区南原 824　[立]台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 16.3 m)・高(約 2.5 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査．封土内より須恵器片出土の伝えあり．

(下作延)稲荷塚古墳（379）(しもさくのべ)いなりづかこふん　[群]

[所]川崎市高津区下作延 1605　[立]舌状台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 20.5 × 20.0 m)・高(約 2.8 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]土師器片・須恵器片　[埴]円筒・馬　[時]後期末葉　[文]浜田晋介 1991　[備]埴輪は，埼玉県鴻巣市生出塚窯産と考えられている

津田山１号墳＊（380）つだやま1ごうふん　[群]津田山古墳群(2 基)

[所]川崎市高津区下作延 1514　[立]舌状台地上　[形]円墳　[周]区画溝　[規]径 26.0 m・高 2.7 m　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]なし　[時]　[文]伊東秀吉 1965　[備]発掘調査の結果，埋葬施設・遺物ともに検出されなかった．

津田山２号墳＊（381）つだやま2ごうふん　[群]津田山古墳群(2 基)

[所]川崎市高津区下作延 1514　[立]舌状台地上　[形]円墳　[周]区画溝　[規]径 29.0 m・高 3.3 m　[埋]不明　[副]不明　[伴]土師器高坏 1(墳内)　[埴]なし　[時]　[文]伊東秀吉 1965　[備]発掘調査の結果，墳丘の一部は遺存していたものの埋葬施設は検出されなかった．墳丘内出土の土器は古墳時代中期．

日向古墳（382）ひなたこふん　[群]

[所]川崎市高津区下作延 2012　[立]丘陵先端　[形]円墳　[周]区画溝　[規]径約

30.0 m・高約 4.5 m　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]円，人，馬　[時]後期末葉　[文]伊東秀吉ほか 1988, 浜田晋介ほか 1996　[備]平成 8(1996)年調査．墳丘の遺存状況は良好．墳丘中心部は粘土を互層にしており，盛り土は高さ 2 mを越える．旧地表面まで掘り下げたが埋葬施設は確認されなかった．谷側の墳丘裾には円筒のほか全身立像を含む人物や馬の埴輪列が検出されている．墳丘下の丘陵南西斜面に位置する日向横穴墓群5号穴からは本墳から転落したと思われる人物埴輪頭部が出土している(伊東秀吉ほか 1981)．埴輪は生出塚工人集団による製作であるが，製作地は不詳．未報告．

久地伊屋之免古墳（383）くじいやのめんこふん　[群]
[所]川崎市高津区久地 670　[立]尾根先端中腹平坦面　[形]円墳　[周]区画溝　[規]径約 16.0 × 17.0 m・高約 2.0 m　[埋]第1主体部：木棺直葬(全長 7.8 m・幅 0.5 ～ 0.7 m)　第2主体部：木棺直葬　[副]第1主体部：琥珀製勾玉 1，瑪瑙製管玉 1 蛇紋岩製小形棗玉 1，琥珀製小玉 1，ガラス製小玉 8，鉄鏃片　第2主体部：なし　[伴]縦横突帯付土師器壺 1(第1主体部西側小口粘土上)，土師器壺 1(第 1 主体部棺上)　[埴]なし　[時]前期　[文]伊東秀吉ほか 1987　[備]方形周溝墓の上に墳丘を構築(尾根上にも前期前半の土師器を出土した方形周溝墓 2 基)．第2主体部とされる遺構については，遺物がなく位置が偏っていること，墓壙もなく直接旧地表上に掘り込んでいること，さらには薬研掘形の断面形を示し棺床が平坦であることなどから，埋葬施設ではなく周溝墓等の溝の可能性が高い．

宗隆寺 1 号墳＊（384）そうりゅうじ1ごうふん　[群]宗隆寺古墳群(3 基)
[所]川崎市高津区溝口 492　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 11.0 m)・高(約 1.4 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査．

宗隆寺 2 号墳＊（385）そうりゅうじ2ごうふん　[群]宗隆寺古墳群(3 基)
[所]川崎市高津区溝口 492　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 19.5 m)・高(約 2.2 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査．

宗隆寺 3 号墳＊（386）そうりゅうじ3ごうふん　[群]宗隆寺古墳群(3 基)
[所]川崎市高津区溝口 492　[立]丘陵上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 19.5 m)・高(約 2.1 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査．

諏訪浅間塚古墳＊（387）すわせんげんづかこふん　[群]
[所]川崎市高津区諏訪 116　[立]沖積地　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 19.5 m)・高(約 3.8 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1968, 伊東秀吉ほか 1988　[備]未調査．

諏訪天神塚古墳（388）すわてんじんづかこふん　[群]
[所]川崎市高津区諏訪 42　[立]沖積地　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 18.0 m)・高(約 1.7 m)　[埋]横穴式石室　[副]不明　[伴]須恵器　[埴]円筒，人物　[時]後期末葉　[文] 伊東秀吉 1968，東京国立博物館 1986，伊東秀吉ほか 1988，浜田晋介 1991　[備]石室は泥岩切石積み無袖式.
二子塚古墳＊（389）ふたごづかこふん　[群]
[所]川崎市高津区二子 695 付近　[立]沖積地　[形]前方後円墳？　[周]不明　[規]長 60 m以上？　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]浜田晋介ほか 1996　[備]
桃之園古墳（390）もものそのこふん　[群]
[所]川崎市高津区久本 490 付近　[立]台地斜面中段テラス　[形]円墳？　[周]不詳　[規]不詳　[埋]不詳　[副]不詳　[伴]不詳　[埴]円筒，人物　[時]後期　[文]浜田晋介 1996　[備]発掘調査によって人物などの埴輪が出土しているが，未報告のため詳細不明．埴輪は群馬系埼玉北西部産か.
久本山古墳（391）ひさもとやまこふん　[群]
[所]川崎市高津区久本 467 付近　[立]舌状台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]不明　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]円筒，人物，馬　[時]後期後半　[文]浜田晋介 1996　[備]旧大蓮寺裏古墳.
クマモリ塚古墳＊（392）くまもりつかこふん　[群]
[所]川崎市高津区久本 350 付近(龍台寺裏山)　[立]台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]不明　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]浜田晋介 1996　[備]未調査.
久保台古墳（393）くぼだいふん　[群]
[所]川崎市高津区末長 365 付近　[立]台地上　[形]円墳 or 帆立貝形前方後円墳？　[周]有り　[規]不詳　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]円筒，形象　[時]後期初頭　[文]　[備]台地中央部で調査区端に孤形を描く周溝が検出されており，周溝内からは埴輪が出土している．埴輪の一部には胎土に結晶片岩を含むものがあることから，群馬県藤岡市本郷埴輪窯産の可能性が高い．周辺からは同時期の人物・馬・円筒埴輪が昭和 60(1985)～ 63(1988)年にかけて採集されている(鈴木重信 1989)ことから，久保台古墳に伴う埴輪であった可能性が高い．ただし，採集された埴輪には時期差が想定されていることから，後期初頭～前葉にかけて埴輪を樹立する古墳が近接して 2 基築造されている可能性もある.
口明塚古墳＊（394）くちあけづかこふん　[群]
[所]川崎市高津区末長 483　[立]台地上　[形]円墳？　[周]不明　[規]不明　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]東原信行ほか 1985　[備]未調

査. 現状は低墳丘であるが, かつては大きな塚であったとされる.

西福寺古墳(395)さいふくじこふん　[群]梶ヶ谷古墳群(4 基)

[所]川崎市高津区梶ヶ谷 3-17　[立]丘陵上　[形]円墳　[周]有り(幅 6.0 ～ 7.5 m)　[規]径約 35.0 m・高約 5.5 m　[埋]不明　[副]不明　[伴]土師器坏(周溝)　[埴]円筒, 水鳥, 形象　[時]中期末葉～後期初頭　[文]竹石健二 1983　[備]埴輪は, 川崎市宮前区犬蔵 1-1 に所在した白井坂埴輪窯産である(浜田晋介ほか 2009).

方界塚(梶ヶ谷)古墳(梶ヶ谷 1 号墳)(396)ほうかいづか(かじがや)こふん(かじがや1ごうふん)　[群]梶ヶ谷古墳群(4 基)

[所]川崎市高津区梶ヶ谷 2　[立]台地上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 9.0 m)・高(約 2.3 m)　[埋]横穴式石室(長 5.9 m)　[副]金銅製耳鐶 2, 碧玉製小玉 3, 刀装具, 青銅製片, 土器片　[伴]不明　[埴]不明　[時]終末期　[文]石野瑛 1932　[備]石室は突出立柱石による擬似両袖式.

清水谷 1 号墳(梶ヶ谷 2 号墳)＊(397)しみずだに1ごうふん(かじがや2ごうふん)　[群]梶ヶ谷古墳群(4 基)

[所]川崎市高津区梶ヶ谷 2(方界塚古墳の北方約 40 m)　[立]台地上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 15.5 m)・高(約 2.8 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1967, 東原信行ほか 1985　[備]昭和 40 年代前半に未調査のまま削平. 遺構や遺物は検出されなかったが, 古墳跡地に粘土塊が散見されたとあることから, 粘土槨等の竪穴系埋葬施設であった可能性がある.

清水谷 2 号墳(梶ヶ谷 3 号墳)＊(398)しみずだに2ごうふん(かじがや3ごうふん)　[群]梶ヶ谷古墳群(4 基)

[所]川崎市高津区梶ヶ谷 2(1 号墳の東側に隣接)　[立]台地上　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 7.5 m)・高(約 2.1 m)　[埋]横穴式石室？　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1967, 東原信行ほか 1985　[備]昭和 40 年代前半に未調査のまま削平. 削平時に切石の一部が出土したとされることから, 埋葬施設は切石積みの横穴式石室であった可能性がある.

新作八幡神社裏古墳＊(399)しんさくはちまんじんじゃうらこふん　[群]

[所]川崎市高津区新作 1467　[立]舌状台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]径(約 19.0 m)・高(約 2.7 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988　[備]1967 ～ 1988 年の間に未調査のまま消滅.

古墳＊(400)(401)こふん　[群]

[所]川崎市高津区新作　[立]台地端　[形]円墳？　[周]不明　[規]不明　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988　[備]2 基とも戦時中に開墾削平. その際の出土品も現存しない.

千年伊勢山台古墳＊(402)ちとせいせやまだいこふん　[群]

[所]川崎市高津区千年 442 [立]台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 12.5 m)・高(約 2.2 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]台地端部立地のため墳丘の大半崩落. 未調査.

子母口富士見台古墳＊(403)しぼぐちふじみだいこふん [群]

[所]川崎市高津区子母口 69 [立]台地上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 17.5 m)・高(約 3.7 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]未調査.

明津水塚古墳＊(404)あくつみずづかこふん [群]

[所]川崎市高津区子母口 709 [立]沖積地 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 16.0 m)・高(約 2.5 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]山田藏太郎 1927, 伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]1967 ～ 1988 年の間に未調査のまま消滅.

蟹ヶ谷(伊勢台)古墳群(405)(406)(407)かにがや(いせだい)こふんぐん [群]

蟹ヶ谷古墳群(3 基)

[所]川崎市高津区蟹ヶ谷 97 [立]台地端 [形]前方後円墳 1・円墳 2 [周]不明 [規]不詳 [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]文献では, 蟹ヶ谷伊勢台1号墳は径約 13.0 m・高さ約 2.7 m, 2号墳(1号墳の東側)は径約 12 m・高さ約 3.0 mを測るとされる.平成 25 年に古墳群の測量調査が開始され, 前方後円墳 1・円墳 2 で構成されることが確認されている.

○『新編武蔵風土記稿』新作村の条には 4 基の塚ありとの記録がみえる. 1 は村の南字田畑の上 青石を立てるさま櫃の如し徳利の如き古陶器 2 出土 1 は田畑の上 甲冑の朽ちたるものあり 1 は村の南野川村との境 弁天塚と称する 徳利の如きもの出土 1 は弁天塚の東方 長三寸ばかりの鉄鏃多数・太刀 4・長刀 2・鎧札・冑の天空の金物ごときもの・「崇寧通宝」多数出土とある. 記述の内容からいずれも古墳と思われるが, 位置が特定できないことから本稿では除外した. このほか, 仏手台というところに 2 基あったがいずれも削平との記録がある.

○『新編武蔵風土記稿』には高津区北見方 188 付近(浜田晋介ほか 1996 では北見方古墳)から古陶器と壺が, 高津区諏訪からは「武器財宝の類」が出土したと伝えられているが, 詳細が不明なため本稿では除外した.

○高津区上作延 14 に所在したビシャモン塚については, 昭和 38(1963)年の調査で古墳と断定する資料が得られなかった(新井清ほか 1966, 持田春吉ほか 1990)ことから本稿では除外した.

○高津区下作延 2060 の台地端に津田山碑際古墳, 同区下作延 2085 の丘陵上にモッコ塚があり, いずれも第2次大戦末期に軍の陣地構築により未調査のまま消滅した

とされる(新井清ほか 1966, 持田春吉ほか 1990)が，ともに詳細不明のため本稿では除外した．
○東原信行ほか1985には，高津区末長40の台地上に昭和35(1960)年頃まで遺存していたとされる古墳が1基，口明塚古墳(394)の東方約80mの同末長506に昭和30年代まで遺存していたとされる古墳(径約 5.0 m・高約 1.5 m)が 1 基記録されているが，ともに詳細不明なため本稿では除外した．
○竹石健二 1983 には，高津区新作 1 丁目の台地上に池ノ谷古墳が所在するとされる．(400)(401)のいずれかが該当する可能性もあるが，詳細不明なため本稿では除外した．

川崎市中原区

井田古墳＊(408)いだこふん ［群］
[所]川崎市中原区井田 1604 ［立]台地上 ［形]円墳？ ［周]不明 ［規]径(約 2.5 m)・高(約 1.3 m) ［埋]不明 ［副]不明 ［伴]不明 ［埴]不明 ［時] ［文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 ［備]1967 ～ 1988 年の間に未調査のまま消滅．
上丸子古墳(409)かみまるここふん ［群]
[所]川崎市中原区上丸子 ［立]自然堤防上 ［形]不明 ［周]不明 ［規]不明 ［埋]不明 ［副]不明 ［伴]不明 ［埴]人物(武装男子 1・男子頭部 1・女子頭部 1・盾持ち 2) ［時]後期 ［文]山田藏太郎 1927, 浜田晋介 1996 ［備]大正 10(1921)年の堤防改修工事中に人物埴輪群が出土．川崎市市民ミュージアムが所蔵する武装男子・男子頭部・女子頭部は古式の様相を呈するのに対し，写真のみが現存する盾持ち人 2 は終末期と考えられる．このことから，後期前葉と後期終末期と築造時期が異なる 2 基の古墳が存在していた可能性が高いなお，腐食した鉄多数と須恵器・弥生式土器が共伴したとされる．
銚子塚古墳＊(410)ちょうしづかこふん ［群]
[所]川崎市中原区田尻町 7 ［立]沖積地 ［形]円墳？ ［周]不明 ［規]径(約 10.0 m)・高(約 2.6 m) ［埋]不明 ［副]不明 ［伴]不明 ［埴]不明 ［時] ［文]山田藏太郎 1927, 伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 ［備]著しく変形．未調査．須恵器出土と伝えられるが，現存しない．
金堀山古墳＊(411)かねほりやまこふん ［群]
[所]川崎市中原区井田 ［立]不詳 ［形]不明 ［周]不明 ［規]不明 ［埋]不明 ［副]不明 ［伴]不明 ［埴]円筒，鶏 ［時] ［文]清水潤三 1955 ［備]詳細不明．金

堀2号横穴墓(川崎市中原区井田 1415 付近)から埴輪片が出土していることから(古江亮仁 1955・1956), この横穴墓群の丘陵上に古墳があり, それを金堀山古墳と称していた可能性が高い.

○沖積微高地である川崎市中原区宮内 4-12(春日神社境内禁足地)から硬玉製勾玉1が出土している(村田文夫 1988). 古墳(宮内古墳)との指摘もあるが(浜田晋介ほか 1996), 滑石製模造品や土師器類を出土した宮内遺跡が近接していることから祭祀遺跡の可能性もあり, 本稿では除外した. なお, 北方には大正 10(1921)年に消滅した黄金塚古墳があったとされるが, 詳細不明のためこれも除外した.

川崎市幸区

塚越古墳(412)つかごしこふん [群]
[所]川崎市幸区塚越 2-182 [立]沖積地 [形]円墳? [周]有り [規]径(約 16.0 × 18.0 m)・高(約 3.2 m) [埋]不詳 [副]不詳 [伴]不明 [埴]円筒 [時] [文]山田藏太郎 1927, 伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988 [備]付近の神社の盛り土用に墳丘の裾を掘削した際に直刀と土器が出土したとされるが, 遺物は現存しない. 2013・2014 年に市教育委員会が確認調査実施.
白山古墳(413)はくさんこふん [群]加瀬台古墳群(11 基)[夢見ヶ崎古墳群 9 基を含む]
[所]川崎市幸区北加瀬 950 付近 [立]独立台地上 [形]前方後円墳 [周]不明 [規]長 87 m, 後円部径 42 m・高 10.5 m, 前方部幅 37.0 m・高 5.0 m [埋]後円部中央:木炭槨(棺長 7.5 m)・北側:粘土槨(棺長 6.72 m)・南側:粘土槨(棺長 7.1 m) 前方部:粘土槨(棺長 6.7 m) [副]後円部中央木炭槨:三角縁神獣鏡 1, 小形内行花文鏡 1, ガラス製小玉群, 剣(槍含む)6, 直刀 3, 鉄鏃 28, 刀子 1, 短冊形鉄斧 1, 有袋鉄斧 3, 手斧 1, 鉈 4, 錐 1, 鑿 1, 鎌 1 北側粘土槨:珠文鏡 1, 乳文鏡 1, 瑪瑙製勾玉 1, 碧玉製(緑色凝灰岩製含む)管玉 6, ガラス製丸玉・小玉 67, 直刀 1, 刀子 1, 鉄器片若干, 網代 南側粘土槨:碧玉・緑色凝灰岩製管玉 2, ガラス製丸玉 1・小玉 10 前方部粘土槨:櫛歯文鏡 1, 緑色凝灰岩製管玉 1, ガラス製小玉 4 [伴]不明 [埴]不明 [時]前期中葉 [文]森貞成 1937, 三田史学会 1953 [備]昭和 12(1937)年慶応大学が調査. 埋葬施設の墳頂部からの深さは後円部中央木炭槨が 3.15 m, 北側粘土槨が 1.35 m, 南側粘土槨が 1.45 m, 前方部粘土槨が約 1.4 mを測る. 中央木炭槨より出土した三角縁天王日月四神四獣鏡は, 京都府椿井大塚山古墳出土鏡

と同笵. 調査後消滅.

第六天古墳(414)だいろくてんこふん　[群]加瀬台古墳群(11 基)[夢見ヶ崎古墳群 9 基を含む]

[所]川崎市幸区北加瀬 950 付近　[立]独立台地端　[形]円墳　[周]不明　[規]径約 19.0 m・高約 3.6 m　[埋]横穴式石室[玄室内箱式石棺安置](長 7.9 m)　[副]石棺内:瑪瑙製勾玉 2, 水晶製切子玉 1, 琥珀製棗玉 6, ガラス製丸玉 7・小玉 165, 金銅製鈴 10, 金銅製薄板残欠, 耳鐶 6(金銅製・金銅製中空・銅製), 銅製釧 3, 刀子 17
玄室内:直刀 12, 鐔 5(六窓 1・八窓 2・無窓 2), 鉄鏃 82, 刀装具 6, 須恵器はそう 1
羨道部:須恵器はそう 1・フラスコ瓶 2・甕残片, 土師器坏 1　[伴]不明　[埴]不明
[時]後期末葉～終末期初頭　[文]森貞成 1937, 三田史学会 1953　[備]周溝は未調査のまま消滅. 石室は切石積胴張無袖持送式で, 羨道部片面のみ胴張. 箱式石棺の石材は秩父産の緑泥片岩で, 底板の上に妻板・側板を載せている. 出土した須恵器は TK43 ～ TK209 型式並行期.

加瀬台 1 号墳＊(415)かせだい1ごうふん　[群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)

[所]川崎市幸区南加瀬 1-?　[立]独立台地端斜面?　[形]不明　[周]不明　[規]不明　[埋]石棺?　[副]不詳　[伴]不明　[埴]武人頭部?　[時]　[文]小松慎一 1922, 髙橋清作 1937, 神奈川県教育委員会 1970, 伊東秀吉ほか 1988, 柳沼千枝 2013　[備]位置は特定できないが, 明治 40(1907)年坪井正五郎が夢見ヶ崎の南東端に位置していた南加瀬横穴墓群と台地上の塚を発掘している. 塚には石棺のようなものがあったとされることから, これが1号墳に該当する可能性が高い. また, 南加瀬横穴墓群からは人物埴輪が出土したとされる. 台地上からの転落であるとすれば, 墳丘付近から埴輪が出土したとされる1号墳の埴輪であった可能性が高くなるが, 詳細は不明である. なお, この埴輪に該当する可能性が高い武人埴輪頭部が東京大学総合研究博物館に所蔵されており, 柳沼千枝 2013 で紹介されている.

加瀬台 2 号墳＊(416)かせだい2ごうふん　[群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)

[所]川崎市幸区北加瀬 1-　[立]独立台地端斜面　[形]円墳?　[周]不明　[規]径(約 15.0 m)・高(約 1.8 m)　[埋]不明　[副]不明　[伴]不明　[埴]不明　[時]　[文]伊東秀吉 1967, 伊東秀吉ほか 1988, 神奈川県教育委員会 1982　[備]伊東秀吉 1967 の2号墳に該当.

加瀬台 3 号墳(417)かせだい3ごうふん　[群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)

[所]川崎市幸区南加瀬 1-　[立]独立台地斜面　[形]不明　[周]不明　[規]不明　[埋]横穴式石室(長 4.75 m)　[副]鉄釘片, 須恵器片　[伴]不明　[埴]不明　[時]終末期前葉～中葉　[文]久保常晴 1952, 伊東秀吉 1967, 神奈川県 1979, 神奈川県教育委員会 1982　[備]伊東秀吉 1967 の3号墳に該当. 明確な墳丘なし. 泥岩切石積胴張無袖持送式の石室は古くに開口.

加瀬台４号墳(了源寺古墳)(418)かせだい4ごうふん(りょうげんじこふん) [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区北加瀬 1(了源寺境内) [立]独立台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 21.0 × 27.0 m)・高(約 3.5 m) [埋]木棺直葬？ [副]六乳一仙獣帯鏡 1, 盤龍鏡 1, 直刀 1, 有袋無肩鉄斧 1 [伴]不詳 [埴]不詳 [時]中期後半 [文]伊東秀吉 1967, 神奈川県教育委員会 1982, 東京国立博物館 1986, 浜田晋介ほか 1996 [備]伊東秀吉 1967 の4号墳に該当. 東京国立博物館 1986 の備考には刃物 1, 埴輪, 土器伴出とあるが, 現存せず詳細不明.

加瀬台５号墳＊(419)かせだい1ごうふん [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区南加瀬 1- [立]独立台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 2.5 m)・高(約 0.5 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]神奈川県教育委員会 1982, 浜田晋介ほか 1996 [備]伊東秀吉 1967 には記載なし. 昭和 45(1970)年～平成 3(1991)年の間に未調査で消滅.

加瀬台６号墳(浅間塚・熊野神社経塚)＊(420)かせだい6ごうふん(せんげんづか・くまのじんじゃきょうづか) [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区北加瀬 1- [立]独立台地上 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 24.0 m)・高(約 4.0 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]常滑壺・鉢 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 神奈川県教育委員会 1982, 伊東秀吉ほか 1988, 浜田晋介ほか 1996 [備]伊東秀吉 1967 の5号墳に該当. 大正時代に常滑壺・鉢出土. これにより経塚として古墳から除外されているが, 立地・規模などからみて古墳を経塚として再利用した可能性が高い.

加瀬台７号墳＊(421)かせだい7ごうふん [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区南加瀬 1- [立]独立台地端 [形]円墳？ [周]不明 [規]径(約 27.0 m)・高(約 2.9 m) [埋]不明 [副]不明 [伴]不明 [埴]不明 [時] [文]伊東秀吉 1967, 神奈川県教育委員会 1982, 伊東秀吉ほか 1988 [備]伊東秀吉 1967 の6号墳に該当. 未調査.

加瀬台８号墳＊(422)かせだい8ごうふん [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区北加瀬 1- [立]独立台地端 [形]方墳 [周]有り [規]辺約 18.0 m [埋]不明 [副]不明 [伴]土師器高坏・小形丸底坩・甕(周溝) [埴]なし [時]中期後葉 [文]伊東秀吉 1967, 浜田晋介ほか 1996 [備]伊東秀吉 1967 の7号墳に該当.

加瀬台９号墳＊(423)かせだい9ごうふん [群]夢見ヶ崎古墳群(9 基)
[所]川崎市幸区北加瀬 1- [立]独立台地端 [形]円墳？ [周]不詳 [規]径(約 23.0 × 26.0 m)・高(約 2.7 m) [埋]横穴式石室 [副]不詳 [伴]なし [埴]なし [時]後期末葉～終末期 [文]伊東秀吉 1967, 浜田晋介ほか 1997 [備]伊東秀吉

1967の1号墳に該当．明確な周溝は検出されていない．凝灰岩切石積みの石室内部は未調査．墳丘下からは中期の玉作り工房址を検出．

川崎市川崎区

山伏塚古墳＊（424）やまぶしづかこふん　[群]
[所]川崎市川崎区池田町(八町畷 貝塚)付近　[立]沖積地　[形]不明　[周]不明　[規]不明　[埋]横穴式石室？　[副]不明　[伴]不明　[埴]人物？　[時]　[文]山田藏太郎 1927　[備]塚付近から「土でできた人の形したもの」が出土．明治5(1872)年開通の京浜鉄道工事中に塚の一部を切り崩した際に穴があったとされることから，埋葬施設は横穴式石室の可能性がある．大正12(1923)年未調査のまま消滅．

補　遺

追記

横浜市保土ヶ谷区

○横浜市港北区に所在する学校法人武相学園には，「今井」と墨書された円筒埴輪片6が所蔵されていることが柳沼千枝 2014で紹介されている．横浜市内の今井であるとすれば保土ヶ谷区今井町である可能性が高いが，町内では古墳が確認されていない．今井町の東方約2kmの保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町には埴輪を有する瀬戸ヶ谷古墳(263)が所在するものの，低位置突帯で突帯の稜が明確な瀬戸ヶ谷古墳の円筒埴輪とは異なる特徴を有している．このことから今井町内にも埴輪を樹立した古墳が存在していた可能性も考えられるが，詳細が不明なため本稿では除外する．

内容追加（文献）

横浜市神奈川区

浦島塚古墳（266）[文]柳沼千枝 2014

横浜市鶴見区

駒岡堂の前古墳（268）[文]柳沼千枝 2014
駒岡瓢箪山古墳（269）[文]柳沼千枝 2014

引用・参考文献

小松慎一 1922「武蔵国南部の横穴群」『人類学雑誌』37-6
山田藏太郎 1927『川崎誌考』
石野瑛 1932「武蔵国橘樹郡宮前村梶ヶ谷古墳調査概記」『考古学雑誌』22-1
森貞成 1937「川崎市加瀬における二基の古墳発掘」『考古学雑誌』27-7
髙橋清作 1937『史跡名勝 夢見ヶ崎(太田道灌遺跡地)』(私家版)
久保常晴 1952「川崎市加瀬山第3号墳発掘調査」『銅鐸』8
三田史学会(柴田常恵・森貞成) 1953『日吉加瀬古墳』考古学・民族学叢刊2
清水潤三 1955「日吉に於ける考古学研究史」『ARCHAEOLOGY』21
古江亮仁 1955『川崎市井田伊勢宮前横穴群調査記』川崎市教育委員会
古江亮仁 1956『川崎市井田伊勢宮金堀横穴群第7号穴調査書』川崎市教育委員会
伊東秀吉 1965「川崎市津田山古墳」『川崎市文化財調査集録』1
新井清ほか 1966「川崎市津田山横穴群概要」『考古たちばな』5・6合併号 高津図書館友の会郷土史研究部
新井清 1966「川崎市野川北根古墳」『考古たちばな』7 高津図書館友の会郷土史研究部
伊東秀吉 1967「川崎市の古墳(1)」『川崎市文化財調査集録』3
伊東秀吉 1968「川崎市の古墳(2)」『川崎市文化財調査集録』4
神奈川県教育委員会 1970『かながわの埴輪』
樋口清之ほか 1973「川崎市高津区馬絹古墳発掘調査概報」『川崎市文化財調査集録』8
川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64-2
神奈川県 1979『神奈川県史 資料編 20 考古資料』
田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
伊東秀吉ほか 1981「川崎市下作延日向横穴墓群の調査」『第3回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』
神奈川県教育委員会 1982「2 加瀬台古墳群」『埋蔵文化財緊急調査概要』神奈川県埋蔵文化財調査報告24
竹石健二 1983『県史跡西福寺古墳－保存整備報告書－』川崎市教育委員会
東原信行ほか 1985「川崎市高津区梶ヶ谷鎗ヶ崎遺跡発掘調査報告」『川崎市文化財調査集録』21
東京国立博物館 1986『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇(関東Ⅲ)』
伊東秀吉ほか 1987『川崎市高津区久地伊屋之免遺跡 』高津図書館友の会郷土史研究部
伊東秀吉ほか 1988「川崎市内の高塚古墳について－現状確認調査を踏えて－」『川崎市文化財調査集録』24
村田文夫 1988「宮内遺跡」『川崎市史 資料編 1 考古 文献 美術工芸』川崎市
鈴木重信 1989「川崎市高津区末長久保台出土の埴輪」『川崎市文化財調査集録』25
持田春吉ほか 1990『緑ヶ丘霊園南横穴墓群発掘調査報告書』高津図書館友の会郷土史研究部
浜田晋介 1991「川崎の埴輪」『川崎市市民ミュージアム 紀要』4
服部隆博ほか 1994『神奈川県指定馬絹古墳保存整備・活用事業報告書』川崎市教育委員会
浜田晋介 1996「川崎の埴輪Ⅱ」『川崎市市民ミュージアム 紀要』9
浜田晋介ほか 1996『加瀬台古墳群の研究Ⅰ－加瀬台8号墳の発掘調査報告書－』川崎市市民ミュージアム考古学叢書2
浜田晋介ほか 1997『加瀬台古墳群の研究Ⅱ－加瀬台9号墳の発掘調査報告書－』川崎市市民ミュージアム考古学叢書3
浜田晋介ほか 2009『白井坂埴輪窯跡』川崎市市民ミュージアム考古学叢書6
柳沼千枝 2013「埴輪の生産体制と地域社会の研究」『横浜市歴史博物館調査研究報告』9
柳沼千枝 2014「埴輪の生産体制と地域社会の研究」『横浜市歴史博物館調査研究報告』10